

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.25 2014.10.31

グローバル人材育成事業 「明石塾」



8月2日、明石塾13期生(20名)の入塾式が本学で行われました。

明石 康塾長式辞(抜粋)

西洋には「運命の女神は前髪しかない」という言葉があります。運命の女神を捕まえるには決して躊躇してはいけない、通り過ぎてしまうと後ろ髪はないので前髪をつかみ損なえばそれでチャンスは終わり、というわけです。明石塾もひとつのチャンスとして是非ともしっかりつかんでほしいと思います。明石塾では英語研修がありますが、英語はそんなに楽なものではありません。しかも、正確に格調のある英語や、仕事上の技術・専門領域におけるきちんとした英語をものにするというのは並

大抵のことではありません。厳しい勉強を経験した上で本物の英語を身につける事ができるのです。国境が意味をなさなくなっていく世界において、道具手段としての英語はとても大事です。ただ、言葉そのものよりも、言葉が伝える意味を心の裏やニュアンスをとらえて理解することに力を注ぐべきだと私は考えています。つまり、言葉で表そうとする、伝えようとする実質、substanceの方が大事であると思うのです。私は国連で40年の生活をしました。100を超える国々の人と様々なお話をしてきました。たくさんの友達も作りました。緊張して息詰まるような交渉もしてきました。言葉をうまく使う事は易しいことではありません。一生かかると言ってもいいと思います。難しく嫌になることがあるかもしれませんが、決して諦めないで勉強を続けてください。ここにおられる先生方、研究員の方々、県立女子大学生チューターさん達が親密に指導してくれます。わからない事、納得できない事は躊躇せずに聞いてください。シャイであることは美德でもありますが、シャイすぎるとまさに運命の女神の前髪をつかみ損ねてしまうのです。

学長祝辞、塾生代表決意表明

続く学長祝辞では、本学の濱口富士雄学長が「国際的に活躍するためには、外国語、あるいは外国の文化を学ぶとともに、日本の文化、日本のあり方という事に対しても強くまなざしを向けておいていただきたい。こういう機会を最大限に利用して、存分に学びを深めてください。」と述べました。式の最後には、20名の塾生を代表して本庄東高校2年の吉田聖英さんが「私が明石塾で学びたいことは、英語で自己表現する力、国際情勢や多様な文化を学び自分の信念を持つこと、世界の中のアジア、アジアの中の日本について考えることです。世界は興味や憧れの対象だけではない、解決すべき問題がたくさんあります。同じ志を持つ仲間と交流し学び合う機会を得られたことを大変嬉しく思います。国際的な視野を持ち、国際舞台で堂々と渡り合える人間になれるように精一杯努力したい。」と決意を述べました。



塾長講義（抜粋）

今の世界で日本が置かれている地位、特に日本の高等教育はどのようなものであるか、次に歴史をどのように理解すればいいのか、最後にグローバル人材とは何か、という3点についてお話しします。

OECD 諸国と比較すると、日本は国家予算に占める教育費の割合が驚くほど少ないと言われています。その足りない部分は家庭が補うことで、比較的質のよい教育が保たれています。これについては文部科学省と財務省の間で議論が続いていますが、教育に政府が注ぐ予算が十分であるとは決して言えないと私は感じています。イギリスのある機構によると、世界中の大学をグローバルな観点から評価した場合、トップ100の中に日本は東大と京大の2つだけ、しかもこの2大学も国際化が遅れているということです。日本の大学の問題は、ペーパーテストですべてを決める入学試験、何百人という生徒が先生の講義を聞くという大教室の欠陥、講義内容の記憶・理解度が試される試験に象徴される一方通行の教育、入学は困難だが卒業するのは簡単、という点です。また、外国に留学する人の数が少なくなってきたことも問題です。3, 40年前はアジアから欧米諸国への留学生数は日本がトップでしたが、現在では中国、韓国、インドに追い越されました。日本人はどうしたのか、向学心を失ったのか、外国に行き勉強し自分の可能性を試すということに無関心になったのか、という疑問さえも持たれます。日本の大学はもう少しグローバルな基準を満たし、もっと先生方も学生も色々な国の人達が一緒に学ぶという方向を目指すべきです。そういうことが世界の教育における日本の相対的な地位に大きく関係してくるのです。



歴史の問題にどのように立ち向うべきかについてですが、ヨーロッパには600年以上前の戦争の記憶を忘れず、いまだに戦争が繰り返されている地域があります。そのような戦争が果てしもなく続くのはいい加減に止めようではないか、ということで国連も一生懸命頑張っていますし、ヨーロッパ諸国も努力を続けています。国際法がつくられ、また国際人道法も作られてきています。国際司法裁判所は国際連盟の時代から現代までずっとあります。国際人道裁判所というのもできましたし、また国連人権理事会というのが2006年にできました。特定の戦争とか、大規模な人権を侵害する行為に対して

の特別裁判所も作られています。このような裁判では、人を罰すること、罪人を探すのではなく、戦争を再び繰り返さず平和を作ることが目的だと思います。そういう意味では歴史的に何があったか、戦争はどうして起きたか、誰がその責任者であるのか、どのように裁いたらいいのかということが大きな問題なのです。アジアにおいても、相手を非難しけなすのではなく、より平和でより信頼し合える共通の未来を作ることが目的でないと駄目だということです。

最後にグローバル人材についてです。グローバル人材にとって最も大事なものは、やる気・チャレンジ精神です。2番目は、異文化に対して好奇心を持ち、理解し、重んじることです。コミュニケーション能力は3番目で、近頃は発信能力よりも受信能力の方が重要だと思っています。受信は相手が何を言うか分かりませんから、それに対する聴取能力を身につける必要があります。簡単な会話ができるだけでは尊敬されませんし、ビジネスや交渉をすることもできません。ますます複雑になっていく世界においては、こちらの気持ちを正確に伝えることも大事ですが、違う文化、違う国の考えていることを、細かいニュアンスまで正確に理解する能力が重要になってくるのです。さらに、相手についてステレオタイプを持たないこと、単純化を慎むことも大切です。国連で初めて所属した部門では、違う教育を受け、違う言語を話す15, 6人の専門職の人達が、共通言語として英語を使いました。本当にこれで一緒に仕事ができるのかと思いました。しかし、一つの目的に向かってチームを組んで仕事をすれば、違う国の違う教育制度の人でも協力できるのです。文化、言葉が違っても一緒に仕事ができる人を見つけ出すことがこれからの世界では大事なことになり、ひいてはこれが日本という国の力を世界に広げることにつながります。これに必要なのは国の力というよりも、個人の力です。このようにたくましく外に向かってきちんと受信をし、発信をし、スキルをもって外国の人と一緒に力を合わせて仕事ができるようになること、これこそグローバル人材の本質ではないか、と私は考えています。

研修報告

明石塾では次のとおり研修を行いました。

日付	午前	午後
8月 6日(水)	英語研修1・2	講義②「グローバリゼーションとアメリカ映画」
8月 7日(木)	英語研修3・4	講義③「群馬の言葉に学ぶ」
8月 8日(金)	英語研修5・6	講義④「ベトナム戦争と国際交渉」
8月11日(月)	英語研修7・8	講義⑤「異文化間コミュニケーションを学問的に考えてみると」
8月12日(火)	英語研修9・10	講義⑥「美術を『学ぶ』ということ」
8月13日(水)	英語研修11・12	講義⑦「上毛かるたで見直す全県ぐるっと40話」
8月22日(金)	県内フィールドワーク(サンデン・グローバルセンター)	
9月 6日(土)	英語研修13・14 (公開授業)	夏休み研修まとめ、テーマ討論①
10月4日(土)	東京フィールドワーク(グローバルフェスタ、東京ジャーミイ)	



大学高校英語教育連携事業

伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校の各高校と連携した英語研修が3年目を迎えました。外国人研究員を講師に、年3回の研修で論理的に英語を使ってプレゼンテーションができる力をつけることを目標にしています。1回目の研修(8月19日沼田女子高校、8月20日高崎経済大学附属高校、9月9日伊勢崎高校)では、グループごとに Show and Tell、Odd one out などのコミュニケーション活動、説得力のあるプレゼンテーションについて実演を交えての講義、クイズ・ジェスチャーゲームなど、英語で発表する能力の素地を養う活動を行いました。今後も、コミュニケーション能力向上を目指す様々な活動に取り組みながら、効果的なプレゼンテーション能力をつけていきます。

また、7月31日に高崎女子高校で開催された特別講座「グローバル・リーダー養成ワークショップ」では研究員が講師を務め、1・2年生19人が参加し2時間にわたり英語でのディスカッションに挑戦しました。



県民英会話サロン「グローバルカフェ」

今年度第1期のグローバルカフェは5月15日より7月24日まで毎週木曜日に行われ、幅広い年齢層の方が英会話を楽しみました。7月24日のカフェスペシャルでは、本学国際コミュニケーション学部の武石みづきさん、文学部英米文化学科の福井美沙妃さんがそれぞれ留学時の体験や感想を発表しました。また本学講師のデイヴィット・ガンさんもゲストスピーカーとして参加しご自身の授業の様子を発表しました。発表者、参加者の皆さんで協力ありがとうございました。

第2期グローバルカフェを以下のとおり開催します。事前の予約、準備は必要ありません。参加ご希望の方は開催日に直接会場までお越しください。

日時：9月25日(木)～12月18日(木)

毎週木曜日18時30分～20時00分(全11回)

(但し、10月2日(木)及び11月27日(木)を除く)

場所：高崎市総合福祉センター 3階会議室4または1階会議室1



留学支援事業

平成 26 年度群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式

7月28日、本学の海外留学支援プログラムを利用し、長期及び短期で海外に留学する学生57名を対象に、群馬県観光親善学生大使委嘱状交付式が行われました。濱口学長は、「最近の若者は内向き志向が多いと言われているが、本学は毎年大勢の学生が海外に留学するなど意欲的である。群馬の魅力は大いに発信して勉学に励んでほしい。」と激励の言葉を述べました。学生を代表し、国際コミュニケーション学部2年の今野若さんは「留学をサポートしてくれた多くの人に感謝するとともに、自分がさらに成長するためにも自分の目で世界を見たい。この留学にどんな付加価値があるかは自分次第で無限大だと思う。」と決意を語りました。



留学帰国報告

短期海外研修(語学留学) ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア) 国際コミュニケーション学部2年 Y.M.

今回の海外研修で学んだことは、積極性の大切さ、異文化理解、そして学生であることの素晴らしさです。5週間という短い期間でしたが、得たものはとても多く、これから残りの学生生活を過ごす上での新たな起点となりました。

語学学校、本校共に国籍が多様でたくさんの学生がいました。休み時間には互いに自国について紹介したり、言葉を教えあっていました。日本とは違う文化があるのが当たり前であり、またそのことを理解することや共有することで新たな知識が増え、さらに相手との仲も深まっていくことが実感できました。様々な国の文化を知ると、自国の良さに改めて気づくこともできました。

学生時代に海外研修という経験をしたことはとても大きいと感じました。大学生は、好きなことや将来のために時間を費やすことが比較的簡単で、今しかできないことができます。今回の海外研修で新たな目標と自分のやるべきことがはっきり見えた気がします。



長期留学 大連海事大学(中国) 文学部総合教養学科3年 A.B.

私が留学生活で学んだことの一つ目は、中国語です。言葉の壁は想像以上に高く、留学したばかりの頃は現地の人々の話す言葉の速度に慣れることに苦労しました。しかし留学を終える頃には、日常生活を送る上では支障がない程度に会話を交わすことができるようになりました。

二つ目は、異文化を理解しようとする姿勢です。留学先では、中国はもちろん、韓国やマレーシア、ロシアやコンゴなど様々な国の方々と交流する機会がありました。彼らの文化は私達とは異なり、理解しにくい習慣な

ども存在します。しかし、異文化を異質なおかしなものとしてではなく、理解しようと試みるものとして捉えるべきだと思います。異文化に触れることは、知的好奇心を増加させ、さらには自身の見地の幅を広げてくれるものだと学ぶことができました。

留学した半年間は、毎日が驚きの連続でした。苦い経験も含め、最高の留生活だったと思います。留学をするべきか悩んだ時期もありましたが、留学を終えた今は留学を決断して本当に良かったと心から思います。

お知らせ

次の行事に参加を希望される方はメールにて群馬県立女子大学外国語教育研究所 (flri-one@pref.gunma.lg.jp) へお申し込みください。なお、詳細については本学ホームページをご覧ください。

○明石塾公開

以下の日程で明石塾を公開します。

日時：平成26年11月15日(土) 午前の部10時～12時、午後の部13時半～15時半

場所：群馬県立女子大学 午前：新館3階教室、午後：新館6階研修室

内容：午前：英語研修、午後：講義 講師：安田 菜津紀氏(フォトジャーナリスト)

○英語教育講演会

県内の小学校、中学校、高等学校及び大学の先生方に対して、英語教育における小中高大の連携について、その方策を具体的に考え、模索する機会を設けるため、英語教育講演会を開催します。

日時：平成26年12月20日(土) 13時半～15時半

場所：群馬県立女子大学 新館6階研修室

講師：神谷 信廣氏(本学国際コミュニケーション学部准教授)

発行：群馬県立女子大学外国語教育研究所

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

TEL：0270-65-8511(代) FAX：0270-65-9538 URL：http://www.gpwu.ac.jp/